

認定特定非営利活動法人 **日本雲南聯誼協会**

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区山谷内町 21-13 1 階

Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261

Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室

Tel: +86-871-63311468 Fax: +86-871-63320658

f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa

ブログ「雲南の郵便屋さん」 検索

編集・発行人 初鹿野 恵蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社/デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第61号

会
報

発行日 2017年(平成29年)5月15日

25の小さな夢基金 卒業後の第8期生 夢が膨らむ大学生活!

夢基金8期生は昆明市女子中学の卒業式を終えたのち、卒業の嬉しさとともに大学合格への一抹の不安を抱きながら各自の実家へ帰りました。そして7月中旬、待望の「大学入学」



葉騰さん 玉翠章さん 白堯英さん



2013年昆明市女子中学校入学当時

選抜通知書」を郵送で受け取りました。葉さんはもともと英語教師に憧れていたもので、雲南師範大学を第一志望に選んでいました。白さんは、実は別の大学が第1志望で、しかも文系の学科を志望にしていたが、師範大学の地理学科という予想外の場を与えられました。玉さんは、自身がタイ族なのでタイ語を勉強したいと思い、雲南民族大学のタイ語学科を志望していました

が、雲南師範大学に合格。家族と相談した結果、大学レベルが上位にある師範大学への入学を決めました。3人ともに「選抜通知書」が届けたとき、両親家族はもとより隣近所上げて大喜び。その晩は大祝会だったそうですが、喜びの一方で「両親には学費の面で心労をかけた」(白さん)と顔を曇らせてました。葉さんも大学進学を迷いましたが、奨学金や学費支援制度を活用して、無事に入学を果たすことができました。

8月末、昆明市内から地下鉄で40分ほどの雲南師範大学呈貢校舎での大学生活が始まりました。大学全体の入学式と学院単位の入学式を経て、2週間に及ぶガイダンスでは大学生活におけるさまざまな注意を受けたそうです。とりわけ「安全な大学生活」に対する心構えが繰り返し強調されたそうです。

そして現在、慌ただしい前期を経験し大学生活にも慣れ、学習も生活もすべてが先生の指導に基づいていた高校時代にはなかった「自由」を大いに感じるとともに、春闘時代とはまったく違う「自己管理」の厳しさを実感しているそうです。中国の大学は全般的に1、2年生で卒業に必要な単位の大半を取得するシステムになっています。そのため1、2年生は早朝から夕方遅くまで授業が組まれ、その上に宿題やレポートが山ほど課せられるので、3人とも休日も寝る時間もないほどの超過密スケジュールだそうです。白さんは理系を選んでしまったおかげで、苦手を数学と物理の勉強に苦戦しながらも、シーサンパンナや雲南各地へ実習に出かけ、

2016年7月1日、協会が支援する「25の小さな夢基金」第8期生が昆明市女子中学の学び舎を巣立ってからおよそ9ヶ月。本年4月8日、昆明市内で卒業生の白堯英、玉翠章、葉騰さんと再会しました。3人はそろって雲南師範大学に進学し、白さんは地理学を専攻、玉さんは外国語学院で英語とタイ語を専攻、葉さんは英語教師をめざして英語教育を学んでいます。中国語で「時間过的很快(時が過ぎ行くのは速い)」といいますが、3人ともすっかり「女子大生」に姿貌。嬉しい驚きでした。



忙しいけど楽しいキャンパスライフ



新しい知識に出会うたびに、学ぶことのおもしろさを楽しんでいます。そして、勉強以外にスポーツや文化活動が校内だけでなく大学の枠を越えて行われていて、白さんはよその大学の図書館で司書の仕事を始めました。他大学の学生との交流は新鮮な刺激となっているそうで、古書販売のビジネス化に興味を持ち始めたそうです。



(左) 王さん (右) 葉さん

雲南師範大学寮にて



大学文化祭での日本文化紹介ブースでは玉翠章さんが活躍しました!

驚いたことに、昨年、8人の夢基金8期生が雲南師範大学に入学しました。春闘生はことあるごとに集まり、ご飯を食べたり、おしゃべりしたり、情報交換をしているそうです。学び舎は変わっても春闘生は強い絆で結ばれています。「大丈夫!」——3人のキラキラと輝く笑顔からそんなメッセージが伝わってきました。春闘生の成長をこれからも見守って行きたいと思います。

平田栄一

(雲南支部元特命支部長、協会会員)

イベント さいたま市 国際友好フェア2017 大宮支部 10年連続出展

「さいたま市国際友好フェア」が5月3日、4日の二日間、さいたま市民の森で開かれ、大宮支部が10年連続で出展しました。同フェアはさいたま市最大級の国際交流イベントで、8万人超が来場しました。

大宮支部ブースには、常連の方が民族衣装の試着に次々訪れ、女性ボランティアの皆さんが休みなくサポートしました。男性ボランティアの皆さんは写真やパネルで協会活動や雲南に

大宮支部 新年会 会員・ボランティア32名が参加



感謝状受贈者の川口邦夫さん(左)と寺内明子大宮支部長(右)



ボランティア協力(順不同、敬称略): 鳥羽清広、川口邦夫、市川由美子、高橋福子、丸田智子、大泉國雄、松本薫、松本裕子、佐藤正典、高橋、小俣小輝、金子沙樹、松本ユハ、山下仁美、服部恵美子、渡辺瑞、松尾ユイ 浦谷光昭

について説明、大勢の方が耳を傾けてくれました。今回もボランティアの皆さんのおかげで設営が

恒例の大宮支部新年会が1月8日(日)、寺内明子大宮支部長宅で開かれました。会員やボランティア、その家族など32名が集まり、一年間の労をねぎらうとともに、新たな活動方針を決めました。雲南料理など参加者が持ち寄った料理のほか、会員の松本薫さん方で採れたダンボールいっぱいの柚子とみかんがテーブルを埋めつくしました。大宮支部の活動を長年にわたって支えてくれている会員の川口邦夫さんと鳥羽清弘さんには本部からの感謝状が手渡されました。

日本雲南聯誼協会大宮支部支部長 寺内明子



沢山のボランティアの方々が参加しました!

ら撤去までスムーズに進めることができました。協力してくれたボランティアの皆さん、ありがとうございました。

今年度は6月の「第20回全国巡回写真展inさいたま」、10月の「さいたま市国際ふれあいフェア」に出展します。

日本雲南聯誼協会大宮支部支部長 寺内明子



ボランティア協力(順不同、敬称略): 市川由美子、金子沙樹、松本ユハ、宋愛平

「25の小さな夢基金」 サポーター募集中



皆様のご支援を
お待ちしております

春闘生を1対1で教育支援する「25の小さな夢基金」のサポーターになってみませんか?

お問い合わせ・お申し込み ↓
東京本部事務局
(月~金、10~18時)

TEL 03(5206)5260

yunnan@jyfa.org

Welcome

ようこそ日本へ——雲南から10名の小さな親善大使が来日



2月10日、昆明理工大学の韓寧先生に引率されて、8歳から14歳の小中学生10名が雲南からはるばる協会本部を訪ねてくれました。

韓寧先生は、昨年、雲南で開催した「第4回日本雲南大学生交流グローバルリーダー育成プログラム」において、学生の研究発表の審査委員としてユーモア溢れる的確な講評とともに、日雲大学生に継続的な交流を行うように励ましを与えてくださいました。

子どもたち一行は、中国から関西国際空



ボランティアの皆様が折り紙を教えました

港に下り立ち、大阪、京都、名古屋を見学した後、バスで箱根に至ったところでトラブルが発生。箱根で立ち往生に陥る災難に遭遇しましたが、初鹿野理事長の手配によって、その後は無事に東京に入ることができました。

東京では、寒さもなんのその、スカイツリーほか各地を精力的に見学。子どもたちは東京の第一印象を異口同音に「人が多い。空気がきれい。ゴミがなくて清潔」と驚きをもって語っていました。

協会本部を訪ねてくれたのは10日の夕刻。いつもはおじさん、おばさんばかりの事務所に元気な子どもたちの笑顔があふれ、急に明るくなりました。全員が隠すことなくハキハキと自己紹介する姿に感動しました。

その後、会場を移して交流会へ。協会からは初鹿野理事長をはじめ、理事、会員、法人会員、協会活動に興味のある方、第4回日本雲南大学生交流グローバルリーダー育成プログラムに参加した日本大学生などの8名が参加して、元雲南支部特命支部長の平田栄一さんの指導で「折り紙」と「福笑い」を体験してもらいました。交流会の

最後に、いつもご協力をいただいている株式会社技術評論社から生物に興味があるという子どもたちへ本が贈られました。

交流会終了後、本部に近いインドカレーのお店で夕食会。子どもたちは初めて口にする本場のインドカレーを「おいしい、おいしい」と賑やかに楽しんでいました。

9時過ぎ、子どもたちを市ヶ谷駅へ送り、「昆明でまた会いましょうね」と再会を約束すると子どもたちが駆け寄ってきてハグ。楽しい、楽しい交流会を終えました。

ご協力・ご寄付(順不同、敬称略)

株式会社技術評論社、さんぼう株式会社、平田栄一



グローバル人材育成参加
法政大 宗野さん



子供たちは大変に喜んでいました



韓寧先生 中央



株式会社技術評論社・片岡社長より本をプレゼント

Thank you

今回の訪日の感想を寄せてくれました。

郎子舒さん



旅の10日目、恵蘭理事長のご招待で東京にある協会本部を訪問しました。

恵蘭理事長、日本の大学生、そしてボランティアの皆さんは楽しい折り紙と福笑いを用意してくれていました。まずは折り紙をしました。次に福笑いをしました。完成した「おかめ」を見て、大笑いしました。

私たちは国を越えたふれあいをし、家族のように話し合っ、打ち解けて、楽しい時間を過ごしました。

私たちが協会を出るとき、恵蘭理事長と

ボランティアの皆さんが見送ってくれました。皆さんは私たちが見えなくなるまで見送ってくれて、とても感動しました。

私はふとある詩を思い出しました。それは唐代の詩人・李白の「汪倫に贈る」の詩です。

桃花潭水深千尺 不及汪倫送我情
(桃花潭水深千尺

及ばず汪倫が我を送るの情に)

昆明先策国際学校5年生 郎子舒



50の小学校プロジェクト 2017年ふれあいの旅開催!

雲南省には、山岳地帯など厳しい環境で暮らす少数民族がたくさんいます。都市部の経済発展から取り残され、地元小学校がなかったり、経済的な理由で義務教育を受けられなかったりする子どもも多いのです。

こうした地域の子どもたちに学びの機会を提供しようと2001年、25の少数民族のために2校ずつ小学校を建設する「50の小学校プロジェクト」が始まりました。ベトナム国境に近い紅河ハニ族民族自治州の「日本立徳慈済

小学校」を皮切りに、2016年9月には、徳宏州タイ族チンポー族自治州に折り返しとなる第25校目の「盈江勐勐橋愛小学校」が開校しました。これまでに協会の支援で開校した小学校で学んだ子どもは12,000人に上ります。

協会は支援した小学校を「ふれあいの旅」などで訪問し、問題や要望があれば、小学校側と一緒に検討・解決するフォローアップを続けています。

協会支援第6校「日中秋那桶橋心小学校」を訪ねて 雲南最後の秘境を旅します



中日日中秋那桶橋心小学校開校式

開校式(2005年8月9日)

本年も昆明市女子中学春蕾クラスの卒業式が7月1日に開催されます。協会では卒業式参列に併せて、雲南省西北端に位置する怒江リス族自治州丙中洛(ピンジョンロウ)にある、「50の小学校プロジェクト」支援第6校の「日中秋那桶橋心小学校」を訪問する予定です。

怒江リス族自治州の丙中洛一帯は「雲南最後の秘境」と呼ばれている地域です。標高4000メートルを超える高黎貢山系と怒山山系に挟まれた大深谷の底を、怒り狂ったように水しぶきを上げて流れ下る怒江のほとりに、古くは茶馬古道の交易地として賑わった集落です。四季折々に彩りを変える深谷の風景はここ

に暮らす人々の誇りであり、癒しを求める昆明人の憧れの「桃源郷」として近年関心が高まっています。村へ通じる道は1本のみ。数年前にコンクリート製の隧道が完成するまで、冬期は外界から完全に隔絶された世界でした。本年7月には、大理からチェベットへ至る「滇藏新通道」の舗装工事が完了し、11月には全線が開通し「21世紀の茶馬古道」が誕生します。交通網の整備とともに、「最後の秘境」と呼ばれる地域も徐々に姿を変えようとしています。

協会支援第6校の「日中秋那桶橋心小学校」が開校したのは2005年でした。協会設立10周年記念誌には、「……トールン族、ヌー族、



旧校舎

チベット族、リス族が争うことなく仲良く暮らしている……丙中洛はかつて茶馬古道の中継地として栄えた歴史があるほか、今世紀(20世紀)初頭にキリスト教が伝入したこともあり、こうした多彩な歴史的背景の元で育まれた独自の文化は、歴史的にみても非常に貴重なものです。この歴史遺産を受け継いでゆくのは他でもない子どもたち。しかし未来の担い手を育むはずの小学校は、交通の便の悪さによって生じた地域全体の貧困事情から、校舎がほとんど朽果てた状態でした」と記録されています。また、同校へ至る道中の険しさについても「現地政府が四輪駆動車をかき集めてくれたものの、全員は乗りきらず、学校までの山道を何度も往復することになりました」とあります。

車1台がようやく通ることができる手掘りのトンネルを抜け、兩岸に渡されたワイヤーロープを滑車にぶら下って怒瀾渦巻く怒江を渡り、最後は数キロの山道を歩き、開校式には、なんと35名の協会関係者が同校を訪問しました。後日談ですが、その開校式の中に、後に春蕾生として「25の小さな夢基金」の支援を受ける劉慧娟さんがいたというのも不思議な縁です。

開校以来12年。雲南全体を通して経済発展



が進み、少数民族の人々の生活も様変わりしてきました。また、2009年から教育制度改革が実施され、雲南各地の小学校は統廃合が行われました。協会はかねてより支援小学校の現状について関心を抱いておりました——学校はその後どうなっているか、農村はどのように姿を変えているか、村民の生活はどのように変化しているか……。今回、最辺境の山間に位置する丙中洛を訪ね、「日中秋那桶橋心小学校」の現状を視察します。また、丙中洛訪問に先立ち、少数民族の歴史文化を研究する専門家をお招きして貴重なお話をうかがい、雲南理解をさらに深める機会も準備しています。ツアーの成果は次号「彩雲の南」で報告します。

ツアー開催時期が迫っておりますが、ツアーに参加を希望される方は詳細について東京本部へお問い合わせください。

→東京本部 TEL 03-5206-5260

連載

こんにちはCSR

—協会を支えてくださる協力企業からのメッセージ—

第17回◎シナジープラス株式会社

シナジープラス株式会社を一言で言い表すのはむずかしいのですが、敢えて言えば、「ヒトづくりを業とする企業」と言えるかもしれません。創業時からの社会貢献活動である「利益の5%を途上国の識字率向上活動に寄付」は、「ヒトづくり」の一環とも言えます。

会社概要■設立 2006年10月31日
本社所在地 〒160-0022 東京都新宿区新宿5-11-30 新宿第五ビル3階 TEL 03-6635-6004
主な事業：通信教育、セミナー運営、コーチングサービス、スクール運営、ラーニングメソッド開発、商品開発・販売、コンサルティング事業他
シナジープラス株式会社HP
<http://www.synergyplus.co.jp>
フルーエント中国語学院HP
<http://cn-seminar.com/>

三宅裕之社長は早稲田大学3年生のとき、1年間休学して中国へ留学しました。大学卒業後、教育関係の大手企業に就職し、語学教材の制作部門で活躍した後、アメリカのコロンビア大学教育大学院へ留学。多文化多言語教育を研究するかわら、NLP (Neuro-Linguistic Programming : 神経言語プログラミング) や催眠療法を学び、米国NLP協会認定NLPトレーナーの資格を取得しました。

2006年、「コミュニケーションと心身の健康を通じて、より豊かな世界を」を理念に掲げ、「脳・心・語学・食・体」の5分野の「シナジー（相乗効果）」によって個人のマンパワー向上をはかる教育企業、シナジープラス株式会社を設立。NLP心理学に基づく語学及びコミュニケーション訓練の指導研修事業を開始しました。

2010年、国内事業の順調な成長を背景に、アジア進出の第1歩として中国の蘇州に独自資本の有限会社を設立。大手日系企業の中国人社員向けのリーダーシップ教育や日

本人社員の中国語研修を行い、業績を拡大しました。このとき、かつて昆明空港で知り合った初鹿野理事長の力添えが三宅社長の大きな援護となりました。

2016年、「中国からアジアへ、シンガポールから世界へ」（三宅社長）と活躍の場を広げ、ご家族とともにシンガポールに移住し拠点を構えました。シンガポールでは、日本向けのオンライン中国語事業『フルーエント中国語学院』と中医学や瞑想などアジアの叢知を海外に発信する事業を展開しています。

会社設立からおよそ10年。「(遠隔地の)スタッフ間の連携が仕事の楽しさを生み出している」と三宅社長。シナジープラス株式会社は日本、蘇州、シンガポールに駐在する多言語多文化のスタッフが、柔軟な働き方とインターネットを駆使したコミュニケーションによって有機的につながる組織体となり、発展しています。

三宅社長と初鹿野理事長との出会いは、まったくの偶然でした。

それは三宅社長が大学4年生のときのこと。三宅青年はアルバイトのツアーコンダクターとして、短期語学研修の大学生を引率して雲南省を訪れていました。帰国の日、学生とともに昆明空港に到着したものの、折悪し

三宅裕之代表取締役



く飛行機にトラブルが発生。空港ロビーで立ち往生してしまいました。たまたまその場に居合わせた初鹿野理事長が窮状を察して声をかけたことが、後年の蘇州進出を後押しする縁となりました。

三宅社長が創業当初から抱えている社会貢献ポリシーは、協会との「シナジー」に通じているのかもしれませんが。社会貢献活動を通して人と「つながり」、その「つながり」がさらに人や社会と「新たなつながり」をもたらす、「人の輪」が広がります。インタビューの最後、(協会は)識字率向上に取り組む人々との連携を考えてみてはどうか」と助言をいただきました。「シナジー」の力を予見させるお言葉でした。

協会ボランティア通信 連載 第10回



『彩雲の南』を送りますよ

金澤 孝さん

(学校法人服部学園服部栄養専門学校 元食品学講師)

『彩雲の南』発送のお手伝いをして5年目になりました。

協会の趣旨には賛同しているのですが、援助するだけの力がなく、滝澤崇理事から「会報誌



国際交流イベント、写真展、チャリティーゴルフコンペや忘年会など、協会活動を陰で支えるボランティア。今、皆さんがご覧になっている会報誌「彩雲の南」もボランティアの手で皆さんに届けられています。今回のボランティア通信は、学校法人「服部学園服部栄養専門学校」の元食品学講師で会報誌のベテランでもある金澤孝さんの登場です。金澤さんは毎年10月の「グローバルフェスタ JAPAN」や11月の「八王子いちよう祭り」、協会主催の写真展にも参加してくれています。

発送のボランティアがある」と言われ、暇は少しあるのでお手伝いをして4年が経ちました。

毎回発送のお手伝いをしていて、温かい皆様の志によって「25の小さな夢基金」や支援25校目が開校した「50の小学校プロジェクト」、国際協力の日にあわせた「グローバルフェスタ JAPAN」などの様々な協

会活動を知ることができました。

わたしたちボランティアが送った会報誌により賛同する皆様の顔が見られるのはチャリティー忘年会です。今年も楽しみにしております。

初鹿野理事長はじめ協会のやさしい声に励まされ、今後ともご支援の皆様に新しいニュースを届けたいと思っています。

交流しながら楽しく国際貢献をしてみませんか？

ボランティアの皆さん、ご協力ありがとうございました。



皆さんも発送ボランティアにご協力ください！

定時総会の資料発送のため、ボランティアの皆さんが集まってくれました。

資料をホッチキスで止めて封筒に入れ、宛名シールと切手を貼って完了。作業は午前10時に始まり、1時間の休憩をはさんで午後4時まで続けました。約400通の定時総会資料を無事、会員の皆さんに発送できました。ボランティアの皆さん、ありがとうございました。

ボランティア協力(順不同、敬称略):
金澤孝、遠藤州、塚田民枝、宋愛平、上原正夫

ボランティア大募集！



- ・東京本部内での、会報誌「彩雲の南」発送作業
- ・パソコン文書作成 (日本語・中国語)
- ・翻訳作業 (日本語 ⇄ 中国語)
- ・イベント / 写真展スタッフ (事前準備〜当日スタッフまで)
- ・会報誌 / ビデオや画像 / ウェブサイトの編集

ボランティア登録は・・・

協会公式 HP (http://www.jyfa.org) → 支援に参加する → ボランティアをする → 登録フォーム



▼イベントスタッフボランティア

▼会報誌発送ボランティア

参加者募集中 「25の小さな夢基金」第9期生卒業式参列と「50の小学校プロジェクト」支援校を訪ねる「ふれあいの旅」



第9期生卒業式と卒業生の皆さん



感動的な卒業式

雲南の少数民族女子高生を支援する「25の小さな夢基金」第9期生卒業式に参列し、「50の小学校プロジェクト」支援校を訪ねる「ふれあいの旅」に参加してみませんか？
感謝の気持ちをこめた感動的な「25の小さな夢基金」卒業式参加。
東洋のグランドキャニオン・怒江にある「50の小学校プロジェクト」支援校訪問。山岳民族のトール族(独龙族)、ヌー族(怒族)の村で少数民族とふれあい。普通のツアーでは体験できない協会の「ふれあいの旅」にぜひ、ご参加下さい。

お問い合わせ・申し込み ↓
東京本部事務局
(月～金、10～18時)

TEL 03(5206)5260
yunnan@jyfa.org

イベント

西日本最大! 世界につながる 国際協力のお祭り 第24回 ワン・ワールド・フェスティバル出演

西日本最大の国際交流イベント「ワン・ワールド・フェスティバル」が2月4日、5日の両日カンテレ扇町スクエア(大阪市北区)をメイン会場に開かれました。国際協力に携わるNPOや国際機関など118団体が参加し、2日間で25,000人(主催者発表)が来場しました。

同フェスティバルは国際交流と協力の大切さを認識し、協会の活動に興味を持ってもらう絶好の機会でもあります。協会は今回も、大阪在住の会員・平松康弘さん、宏子さんと夫妻の協力を得て出展、初めての試みとしてブースでプーアル茶を試飲してもらいました。学生の来場者も多く、日本と雲南の大学生によるグローバルリーダー育成プログラムに興味を持つ学生もいました。



平松康弘さん(左)と宏子さん(右)
学生ボランティアが大活躍



ボランティア協力(順不同、敬称略):
平松康弘、平松宏子、栗山美咲、
近藤敏、大塚美央

2016年度 第4回理事会 及び 役員・顧問会 開催報告

2016年度最後の理事会及び役員・顧問会が下記の通り行われました。



日 時: 2017年2月17日(金)
理事会15:30~17:00
役員・顧問会17:00~18:00
場 所: 株式会社技術評論社1階 101会議室
司会進行: 滝澤 崇 理事
参加人数: 12名(事務も含む)
【議案】2016年度定時総会・理事会及び役員顧問会について、協会リーフレットについて、協会設立20周年記念事業について、NPO法改正等による定款変更について
【報告事項】公益財団法人一ツ橋総合財団平成29年度助成金報告、イベント終了報告等



中国大使館主催 国際婦人デー 記念レセプション 初鹿野恵蘭理事長 出席

3月8日の「国際婦人デー」を前に中国大使館主催の記念レセプションが開かれ、初鹿野恵蘭理事長を含む日中友好に貢献する企業、団体の女性代表約350名が招かれました。

駐日大使夫人の汪婉参事官は「日本各地の団体で日中友好に携わっている方は、女性だからこそできることがあるという熱意で草の根交流を続けている。今後も皆さんとともに日中友好促進のために尽力します」と挨拶しました。

第34回 全国公募 墨美展 祝賀会出席



杉谷隆志前専務理事
(前列中央)



近藤和馬さん協会会員

水墨画家の杉谷隆志前専務理事が会長を務める墨美会の第34回全国公募展・墨美展が4月26日から5月2日まで東京都美術館(東京都台東区上野公園内)で開かれました。4月26日には上野公園の

第41回 アジアの祭典 チャリティーバザー 2017

一般社団法人アジア婦人友好会が主催する恒例の「アジアの祭典チャリティーバザー」が4月19日、ANAインターコンチネンタルホテル東京(東京都港区赤坂)で開かれました。福祉教育や災害支援のため、日本、中国をはじめとするアジア・太平洋の26か国が同バザーに協力しており、初鹿野恵蘭理事長も参加しました。



汪婉参事官(左から2人目)と
初鹿野恵蘭理事長(右から2人目)

会場では民族舞踊や民族楽器演奏が披露され、参加各国の手工芸品や日本では見られないような料理、スイーツがチャリティー販売されました。

「上野精養軒」で祝賀会が行われ、同会会員など50名以上が出席。協会から片岡敬順副会長と滝澤崇理事らが出席しました。

今年93歳の水墨画家・阿部風木子先生は挨拶で「墨は日中友好のかけ橋で、水墨画を描くことによって子どもから老人まで日中友好を担うことができます。たくさん水墨画をかきましょう」と呼びかけました。

祝賀会では、協会会員でもある会員の近藤和馬さんが太極拳を披露し、会場を盛り上げました。

平田栄一さんの昆明新事情 昆明から最新事情をお届け→

日々移り変わる昆明。今回いくつか目を見張る出来事に遭遇しました。



南屏街界隈で乗り降り自由のレンタル自転車が増えています。専用アプリをスマホにダウンロードし、自転車に添付されているQRコード

をカメラで読み取れば即利用が可能。フレームが赤、黄色、シルバーに塗り分けられた3種があるようで、いずれも料金は30分1元程度の安さ。観光客だけでなく、昆明市民も日常の足として活用しているようです。

2 昆明の新味覚

雲南料理に多少食傷気味の方に朗報。南屏街広場から北東へ5分程行ったビルの地下に「茄子恰恰(チェーズ・チャチャ)」というレストランが開店。平日夕方は1時間待ち、週末は2時間待ちを「覚悟せよ!」といわれるほどの人気店です。売りは店名にある通りの「茄子料理」(因に店名は写真を取るときに発する「チーズ、カシヤ」の駄洒落との説も)。看板メニューの「麻婆茄子」は掛け値なしの美味です。その他の料理も従来の昆明味道とは違い、日本人の味覚にも合うようです。



茄子恰恰



台湾麵包

協会の昆明事務所に近い延安病院の正門から人民東路を西に20mほど行くと食欲をそそる香りが漂ってきます。この店、「台湾式手撕麵包(台湾式手で割けるパン)」と銘打って、「焼きたてのパン」が人気を博しています。いつ行っても焼き上がり待ち客が列をなしています。干しぶどう入り、小豆入り、プレーン(具なし)の3種類をほぼ20分毎に目の前で焼き上げ、ホカホカの状態で販売しています。何と言っても焼きたてのパンは美味い!昆明の米线、包子に飽きた方にはオススメです。1個8元。2個買うと4元になるという不思議なお店です。

編集後記

福岡市内にある出身高校が今年創立百周年を迎え、先日都内で開かれた東京同窓

会に七百人を超す卒業生が集まりました。顔も名前も知らない先輩後輩ですが、同じ校舎で学んだという目に見えない絆を感じました。協会が支援する「春蕾クラス」もすでに五百名を超える卒業生を送り出し、OG

組織も立ち上がりました。いずれ中国で有名な卒業生も出て、東京で百人を超す同窓会を開く日が来るのでは、なんて勝手な想像をして楽しんでいます。
(編集長・木本一彰)

イベント情報

第20回 全国巡回写真展 「笑顔を君に」 in さいたま

会期: 6月22日(木)~6月26日(月)
時間: 10:00~17:00
場所: さいたま市市民活動サポートセンター
多目的展示コーナー
(さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナール9階)
主催: 日本雲南聯誼協会大宮支部
※入場無料

「25の小さな夢基金」ふれあいの旅 春蕾卒業式参列

期間: 6月29日(木)~7月6日(日) 7泊8日
場所: 昆明市女子中学、協会支援第6校目小学校
(怒江リ族自治州)等

「25の小さな夢基金」 第4回上海日本人学校交流会

期間: 7月12日(水)
場所: 上海日本人学校高等部(上海市)
主催: 日本雲南聯誼協会
協賛: 上海森茂診療所、上海日本人学校、
昆明市女子中学

2017年度 第2回理事会及び 役員・顧問会

日時: 2017年8月18日(金)
理事会15:30~、役員・顧問会17:00~
場所: 株式会社技術評論社内 会議室
(東京都新宿区)

第13回 雲南省教育支援 チャリティーゴルフコンペ

日時: 10月21日(土)
場所: 大月カントリークラブ(山梨県大月市)

第17回 チャリティー忘年会

日時: 12月16日(土) 17:00~19:00
場所: ビヤステーション恵比寿
(東京都渋谷区恵比寿ガーデンプレイス内)

お知らせ

第20回 全国巡回写真展

「笑顔を君に」 in さいたま

会期 2017年6月22日(木)~26日(月)
10:00~17:00
会場 さいたま市市民活動サポートセンター
多目的展示コーナー
(さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナール9階)
※入場無料

展示内容

- 中国雲南省の大自然と人々の暮らしと少数民族の子どもたちの写真
- 日中小学生交流活動「小さな壁新聞」、少数民族衣装展示
- 協会の様々な教育支援活動を紹介する写真やパネル など

第21回 全国巡回写真展 「笑顔を君に」



in 半蔵門
会期 2017年9月8日(金)~22日(金)
10:00~17:00
会場 一般財団法人自治体国際化協会 市民国際プラザ
(東京都千代田区麹町1-7 相互半蔵門ビル1階)
※入場無料

展示内容

- 協会の様々な教育支援活動を紹介する写真やパネル など
- 協会の様々な教育支援活動を紹介する写真やパネル など
- 協会の様々な教育支援活動を紹介する写真やパネル など